



F160808JUF296(4608x3072)
JUF297 KHJ51-1 (P)
①和傘を作る竹澤幸代さん＝京都市上京区

【編注】
竹澤幸代(たけざわ・さちよ)は1984年11月生まれ
西尾耕太郎(にしほり・

こうした企画を実際に形にしていくのも女性職人たちだ。「まだ和傘を見たことのない世界中の人に、その良さを知ってもらいたい」と竹澤さんは思いを語る。

(了)

日本の文化や生活に結ぶ一人。今年、スペインの芸術を学び、日吉屋での職人生活はアルバイト時代から通算して10年以上に及ぶ。後継者不足が悩みの種。そんな中、京都市にある老舗の和傘工房では、若い女性職人たちが伝統を受け継ぎ、新たな発想の製品作りも支えている。「大作を前にプレッシャーはあったが、やりがいはありました」と話す竹澤幸代さん(31)は、京都市で唯一の和傘工房「日吉屋」で働く女性職人。専門学校で竹細工の技

全国各地から寄せられる和傘作りは地域によって工程が異なり、修理は手探りだ。骨組みに使う竹、骨を留める軸の部品「ろくろ」が在庫品では合わないこともあり、竹澤さんは完成に向け工夫を重ねる。「知らない技術を学べる。私にとっては、古い物の方が新しい」と言う和傘の骨組みや美しさを生かし、近年は新しい製品も生まれている。日吉屋は5代目当主の西尾耕人郎社長(41)の下、和傘の開閉技術を利用し、形を変えられる和風照明やバスケット(籠)といったおしゃれなインテリア用品も開発してきた。



F160808JUF296(4608x3072)
JUF297 KHJ51-2 (P)
②和傘や照明器具などが並ぶ日吉屋の店頭＝京都市上京区
こうたろつ)は1974年10月生まれ

JUF296 KHJ5...74行
「家庭」(写真2)
◎伝統と革新、支える若手職人
美しい和傘を「世界中の人に」―京都―